

『職場体験学習』をお手伝い



自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 久保田敬介2等陸尉）は担当地域に所在する中学校3校に対して、陸上自衛隊の駐屯地 見学及び体験型学習の支援をした。これは中学校側から「職場体験学習」に協力いただけないかとお話があり、私共もぜひ自衛隊という職業を知って頂きたいと実現した。

『駒門駐屯地』『座間駐屯地』『武山駐屯地』に所在する部隊に依頼して、自衛隊の敬礼動作、ロープの結びかたや救急法（心肺蘇生法）などの隊員の基礎的な動作をはじめ、各駐屯地に所在する部隊の特色を活かした自衛隊車両の体験搭乗など、なかなか日常では経験できない自衛隊ならではの体験をしてもらった。生徒からは「良い経験ができました」「自衛隊の仕事を知ることができました」等の感想があった。

自衛隊神奈川地方協力本部は自衛隊の魅力や、やりがいを発信する活動を行っており、今回のような「職場体験学習」はもちろんのこと「部隊見学」や「体験搭乗」などを体験していただき、もっと自衛隊の事を知っていただきたいと思いますと考えている。

中学生に真の自衛隊の姿を知ってもらいたい



「皆さん自衛隊をイメージしてください。皆、ほふく前進していると思っていませんか」

横浜市立根岸中学校で行われた職業講話学習は、上大岡募集案内所長（荒木 功順3等陸佐）のこの第一声から始まった。

職業講話学習には1学年の生徒23名と教師2名が参加し、初めて耳にする自衛隊の職種や仕事内容、災害派遣等の活動についての説明を興味深そうに聞き入っていた。

講話終了後には「なぜ自衛官を目指したのですか？」「今まで体験した一番危険なことは何ですか？」「どうやって昇任するのですか？」等の質問があり、自衛隊に関心を持ってもらえたようだった。

上大岡募集案内所が担当する横浜市南部の地域には自衛隊の施設等がなく自衛隊への関心や認知度が低いことが大きな課題となっている。

上大岡募集案内所は、これからこのような活動を通して、子供たちに真の自衛隊の姿を知ってもらおうことで、平和を維持することの大切さや国民の負託にこたえることの大切さや国民の負託にこたえることのやりがいや伝え、防衛基盤の拡充につながることを期待している。

上大岡募集案内所は、これからのこのような活動を通して、子供たちに真の自衛隊の姿を知ってもらおうことで、平和を維持することの大切さや国民の負託にこたえることの大切さや国民の負託にこたえることのやりがいや伝え、防衛基盤の拡充につながることを期待している。

3年振りに一般公開された令和5年青葉区消防出初式へ初参加



自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山1尉）は、1月5日（木）青葉消防署（横浜市青葉区）で行われた「令和5年青葉区消防出初式」に初めて参加した。3年振りに一般公開の実施となった出初式当日は、賑やかに晴れた日となり、令和5年初行事に相応しい天候となった。

青葉消防署で実施された出初式式典では、消防関係の功労者の表彰式が行われるとともに、区役所駐車場において、防災関係の車両展示が行われた。市ヶ尾募集案内所は、陸上自衛隊第31普通科連隊（武山駐屯地）の支援を受け、高機動車の展示を実施した。車両展示は、入場時の手指の消毒、検温、来場者が密にならないよう車両の間隔を空ける等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した展示方法が取られた。消防車両を始め、救急車、パトカー、白バイ、水道局、土木事務所、道路公園、電気会社及びガス会社等、官民合わせて約200台の緊急車両が集結し、一堂に集まる姿は圧巻であった。

今回、来場者が密にならないように考慮したため、出初式の花形である消防署員や消防団員が行う消防演技、一斉放水等の催し物は残念ながら実施されなかったが、高機動車を展示した自衛隊ブースには、多くの家族連れが訪れてくれた。来場者たちは展示車両の前で記念撮影をしたり、車両に乗りたりと普段できない体験を目を輝かせていた。来場者から「この車は大きくて迫力があります。どのような時に活躍しますか」と質問を受けると、広報官が丁寧に説明をした。また災害派遣等を見たことがあるという来場者も多く、幅広い年齢層が自衛隊に注目してくれていることも実感できた。消防や警察の担当者との交流が図れただけでなく、地域に密着した自衛隊をPRできた素晴らしい機会であった。

市ヶ尾募集案内所は「各関係団体及び地域の方々に自衛隊を理解して頂ける機会となった。引き続き理解向上に努め、自衛官募集につなげていきたい」としている。

